

『無痛分娩』を考える 妊婦さんにご家族の皆様へ

無痛分娩とは？

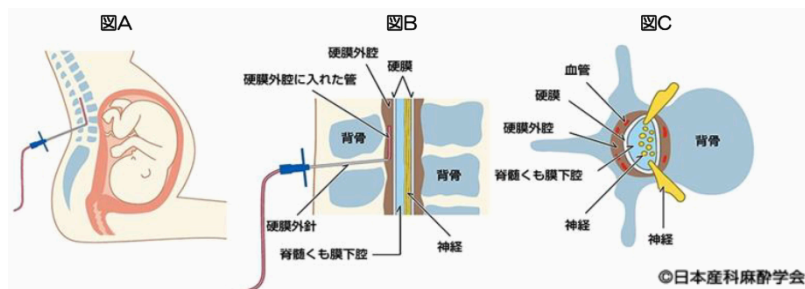
- ❁ 無痛分娩とは、陣痛の痛みを麻酔を使用して最低限まで和らげる分娩方法です。全ての痛みを取り除くわけではありません。
- ❁ 厚生労働省から2022年4月27日に公表された医療施設（静態）調査結果によると帝王切開も含めた全分娩のうち無痛経膈分娩率は8.6%と、近年増加傾向です。
- ❁ 当院では麻酔科医による無痛分娩管理を行っており、安全で質の高い麻酔を提供します。

使用する主な麻酔（硬膜外麻酔）

詳しい説明は
「無痛分娩勉強会」にて！

背骨の隙間から針を挿入し、硬膜外腔というところに直径1mm以下のカテーテル（管）を留置します。このカテーテルから麻酔薬を入れることにより分娩の痛みを軽減します。

36週ごろの麻酔科外来にて安全に行うことができると判断された方のみ麻酔をします。この際、血液凝固障害や背骨の手術歴などの既往歴、急激な体重増加（妊娠前より12kg以上の増加）のある方はお断りさせていただく場合があります。



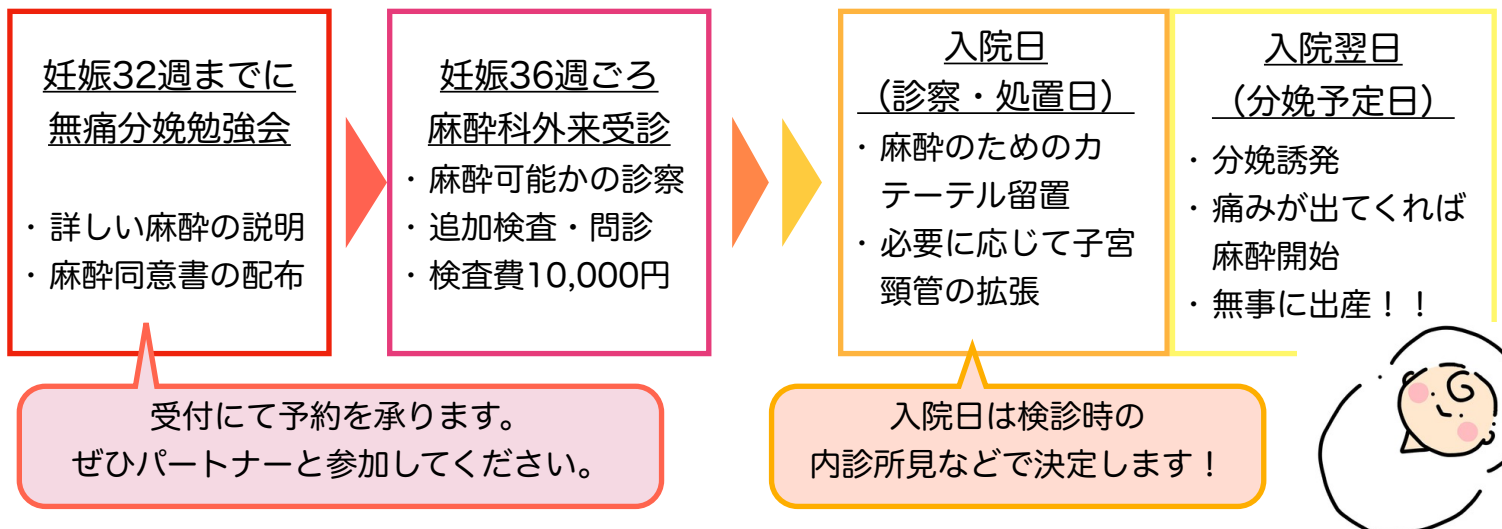
無痛分娩のメリット

- ❁ 陣痛の軽減により落ち着いて分娩に臨めます。
- ❁ 分娩時のダメージが少なく、産後の回復が早くなる人が多いです。
- ❁ 合併症のある妊婦さんでは安全に出産するために無痛分娩が推奨されています。

無痛分娩のリスク

- ❁ 分娩が遷延する可能性があり、鉗子分娩・吸引分娩が増加します。また、陣痛を促す薬を使う頻度が高くなります。
- ❁ 起こりうる副作用・合併症：血圧の低下、胎児心拍数の低下、かゆみ、頭痛、体温上昇、腰痛・下肢の神経障害、排尿障害
- ❁ 極めて稀な重篤な合併症：硬膜外血腫・膿瘍、局所麻酔薬中毒、高位・全脊髄くも膜麻酔、薬剤アレルギー・神経障害・アナフィラキシーショック

無痛分娩を行う際のスケジュール



- ❁ 当院の無痛分娩は安全に配慮し、予め出産日を設定し陣痛促進剤などの医療介入をする「計画分娩」で行います。入院予定日前に緊急入院となった際でも可能な限り無痛分娩管理をしますが、休日夜間は筋肉注射による和痛分娩となる可能性があります。
- ❁ 無痛分娩教室参加後であれば妊娠週数に関わらず、分娩予約と同時に無痛分娩予約が可能です。安全に管理させていただくため、週に4人までの予約枠とさせていただきます。
- ❁ 無痛分娩の予約には無痛分娩教室への参加が必須です。里帰り出産や都合により参加が難しい場合には個別対応も可能ですのでお電話もしくは受付にてご相談ください。

当院の無痛分娩料金

- ❁ 無痛分娩の費用として、通常の分娩費用に加えて10万円（自費診療・税別）をいただいております。分娩遷延により入院延長や追加処置を要した際には追加料金が発生する可能性があります。
- ❁ このうち、検査費用1万円を麻酔科外来受診時にお支払いいただきます。この費用は無痛分娩に至らなかった場合でも返金致しかねます。（休日夜間に陣痛発来の場合には、筋肉注射による産痛緩和に代えさせていただきます。）
- ❁ 無痛分娩費用には、無痛分娩に使用する特殊な針や麻酔薬の料金も全て含まれております。そのため、分娩の満足度に関わらず、料金は発生しますのでご了承ください。

当院における無痛分娩の診療体制と安全対策

無痛分娩には上記のような危険を伴うため、当院では厚生労働省の通達「無痛分娩の安全な提供体制の構築について」（平成30年4月20日）に基づいた診療体制を整えています。

